

**製品名: Tsg 101 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab19357**

研究使用のみ

**概要**

|        |  |
|--------|--|
| 説明     | ウサギポリクローナル抗体                                       |
| 宿主     | うさぎ  |
| 応用     | WB,IHC,ICC/IF,ELISA                                |
| 反応性    | 人間、マウス、ラット、サル                                      |
| 標識     | 非共役  |
| 修飾     | 未修正  |
| アイソタイプ | IgG  |
| クローン性  | ポリクローナル  |
| 形態     | 液体   |
| 濃度     | 1mg/ml   |
| 保存     | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。   |
| 輸送     | 氷袋   |
| バッファー  | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製     | アフィニティー精製  |

**応用**

|      |  |
|------|--|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000 |
| 分子量  | 44kDa  |

**抗原情報**

|              |   |
|--------------|---|
| 遺伝子名         | TSG101  |
| 別名           | TSG101; Tumor susceptibility gene 101 protein; ESCRT-I complex subunit TSG101 |
| 遺伝子 ID       | 7251.0  |
| SwissProt ID | Q99816  |
| 免疫原          | 抗血清はヒト TSG101 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 281-330                              |

**背景**

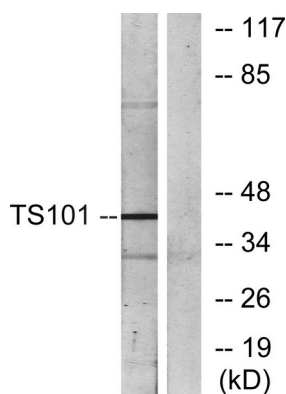
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ユビキチン結合酵素の不活性相同遺伝子群に属する。この遺伝子産物は、腫瘍形成に関与する細胞質リン酸化タンパク質であるスタスミンと相互作用するコイルドコイルドメインを含む。このタンパク質は細胞の増

殖と分化に関与し、負の成長制御因子として作用する可能性がある。この腫瘍感受性遺伝子の in vitro 定常発現は、ゲノム安定性の維持と細胞周期制御に重要であると考えられる。この遺伝子の変異と選択的スプライシングは乳がんにおいて高頻度に認められ、乳がんの腫瘍形成および / または進行過程において欠陥が生じることを示唆している。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、代替産物: 追加のアイソフォームが存在すると思われる。原発性乳がんおよびその他の腫瘍では、いくつかの短いアイソフォームが検出されています。ドメイン:コイルドコイルドメインはスタスミンと相互作用する可能性があります。ドメイン:UEV ドメインは、ユビキチンおよび P-[ST]-A-P ペプチドモチーフに独立して結合します。ドメイン:UEV ドメインは、複合体とユビキチンの相互作用に必要です。また、HIV-1 P6 タンパク質およびヒトスプマレトロウイルス Gag タンパク質の PTAP/PSAP モチーフとの相互作用を媒介します。機能:小胞輸送プロセスの調節因子である ESCRT-I 複合体の構成要素です。ユビキチン化されたカーゴタンパク質に結合し、エンドサイトーシスによるユビキチン化されたカーゴを多小胞体 (MVB) に選別するために必要です。ESCRT-0 と ESCRT-I 複合体の関連を媒介します。細胞質分裂の完了に必要であり、機能には CEP55 が必要です。多くのウイルスの出芽に関与し、後期出芽モチーフ P-[ST]-A-P を含むウイルスタンパク質との相互作用を介して関与しています。この相互作用は、多くのレトロウイルスのウイルス粒子の出芽に不可欠です。PTM: LRSAM1 によって複数の部位でモノユビキチン化されます。ユビキチン化により不活性化されますが、これはおそらく、活性な膜結合タンパク質と不活性な可溶性タンパク質との間のシャトルリングを制御することによって行われます。類似性: ユビキチン結合酵素ファミリーに属します。UEV サブファミリー。類似性: 1 つの SB (スタディボックス) ドメインを含みます。類似性: 1 つの UEV (ユビキチン E2 バリエント) ドメインを含みます。細胞内局在: 主に細胞質内。活性時は膜結合型、不活性時は可溶性です。細胞周期の段階に応じて、核内で検出されます。細胞質分裂中に中央体で CEP55 と共局在します。サブユニット: ESCRT-I 複合体 (輸送 I に必要なエンドソーム選別複合体) の構成要素で、TSG101、VPS28、VPS37 タンパク質 (VPS37A ~ -D)、および FAM125/MVB12 タンパク質 (FAM125A または -B) が 1:1:1:1 の化学量論で構成 FAM125A/MVB12A と相互作用する。この相互作用は TSG101-VPS37 二元サブ複合体を介していると思われる。VPS37D と相互作用する。LRSAM1 と相互作用する。CEP55 と相互作用する。この相互作用は細胞質分裂に必要であるが、ウイルスの出芽には必要ではない。HIV-1 p6 と相互作用する。ヒトスプマウイルス Gag と相互作用する。HTLV-1 Gag と相互作用する。エボラウイルス VP40 と相互作用する。EIAV p9 と相互作用する。この相互作用は in vitro で示されている。組織特異性: 心臓、脳、胎盤、肺、肝臓、骨格筋、腎臓、脾臓。

## 研究分野

エンドサイトーシス;

## 画像データ



TS101 抗体を用いた COS7 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。